

2025年

7月1日〔火〕→9月23日〔火・祝〕

新潟市會津八一記念館

開館時間 10時～18時（17時30分まで受付）

休館日 月曜日（ただし祝休日の場合は翌日）

入館料 一般 500円

大学生 300円

高校生 200円

小・中学生 100円

※団体20名様以上2割引、

土日祝休日は小・中学生無料

會津八一の誕生日、

8月1日は入館料無料

主催 新潟市會津八一記念館

共催 新潟日報社

後援 BSN新潟放送

協力企業 浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、葵酒造（旧高橋酒造）

開館50周年記念

50th Anniversary
of the Museum

會津八一

晩年の輝き



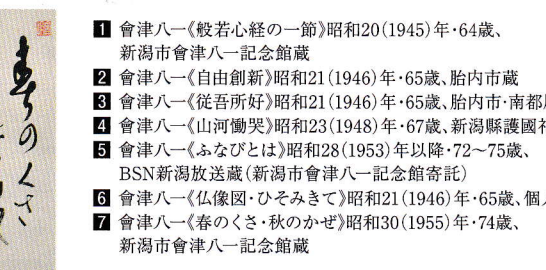
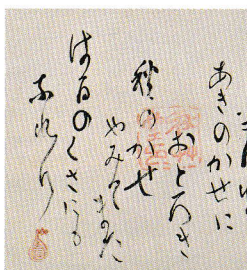
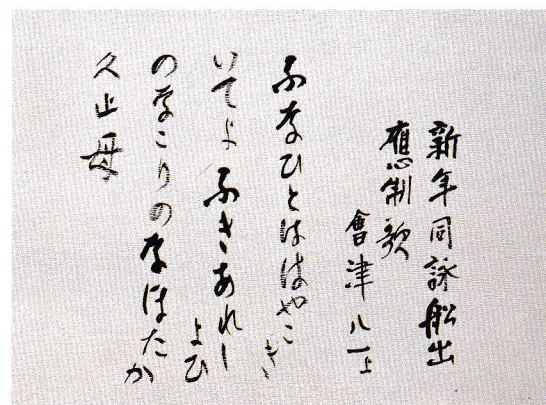
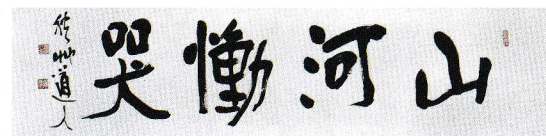
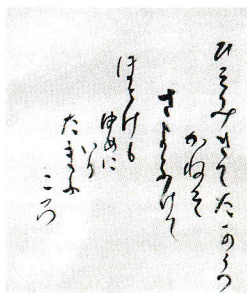
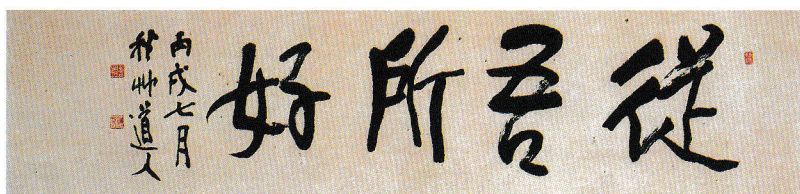
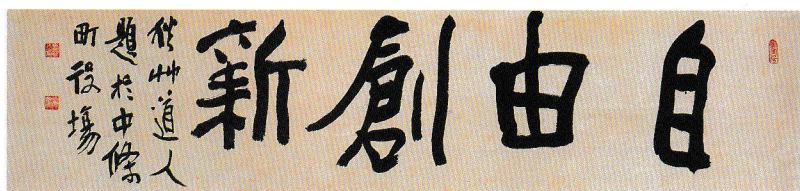
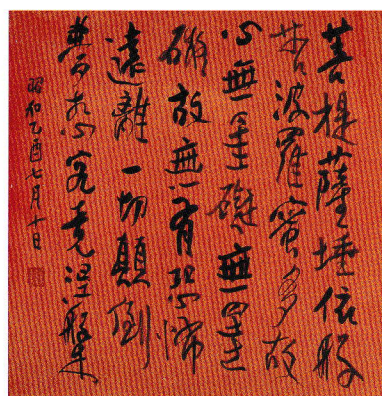
AIZU YAICHI
MEMORIAL MUSEUM

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1
新潟日報メディアシップ5F
Tel.025-282-7612 (10:00～18:00)



入館割引券
●本券持参で2名様まで
2割引をいたします
●他の割引との併用不可
2025.9.23まで有効

會津八一 開館50周年記念 晩年の輝き



會津八一は太平洋戦争などの社会情勢の混乱に巻き込まれながらも終生「獨往」の精神を貫き、文芸活動に心血を注ぎ、輝かしい業績を残しました。

昭和20（1945）年4月、64歳の八一は東京で被災して当時の新潟県北蒲原郡中条町（現胎内市）に疎開し、養女きい子との死別という苦難にも遭遇します。厳しい疎開生活の一方で、疎開先での八一は周囲の人々から温かいサポートを受けたためそのお礼に書作品を贈ることもありました。

その後、昭和21（1946）年7月から75歳で没する昭和31（1956）年11月までの約10年間は、現在の新潟市中央区南浜通で暮らしました。歌集の編集や書の制作に勤しみ、毎年のように書の個展を開いています。また、地元の文化振興のために尽力し、夕刊新潟社社長を務め、新潟市名誉市民に推挙されています。

戦後80年を迎えた今年、本展では胎内市と新潟市で結実した、八一芸術の集大成をご覧いただきます。

EVENT INFORMATION 関連イベント

1 開館50周年記念連続講演会 第1回講演会 「會津八一の書の真価」

出演者 角田勝久氏（新潟大学教授）

日時 2025年9月21日（日）14:00～15:30

会場 日報ホール（新潟日報メディアシップ2階）

聴講料 1,000円（入館料込み）

定員 130名



2 野中吟雪館長による作品鑑賞会

日時 2025年8月31日（日）14:00～ 約50分

会場 当館展示室（申込不要/要当日観覧券）

3 学芸員による作品解説会

日時 会期中の第2・4日曜日 7/13（日）、27（日）、8/10（日）、24（日）、9/14（日） いずれも11:00～ 約50分

会場 当館展示室（申込不要/要当日観覧券）

イベント①のお申し込み方法

イベント①の聴講をご希望される方は専用申込フォームかはがきのいずれかでお申込みください。はがきの場合、イベント名と、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、會津八一記念館宛に9月14日までにお送りください。（ただし1通につき、1名様までのご応募となります）定員に達し次第締め切ります。申し込まれた方には当日、聴講券を会場でお渡しいたします。（はがきでの返信はございません）



専用申込フォームはこちら
開催日の2日前迄にお申し込みください

期間中、本展覧会名を2人の書家による揮毫で展示室前に掲示しています。

- 7月1日～8月11日：小林未瑛先生（新潟県書道協会参事）
- 8月13日～9月23日：鈴木青雨先生（新潟県書道協会参事）



〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ 5F
TEL.025-282-7612 / FAX.025-282-7614 / MAIL: info@aizuyaichi.or.jp
当館へはメディアシップのエレベーターをご利用ください。（階段はございません）

◎ 交通のご案内 新潟駅からバス約9分、タクシー約5分、徒歩約15分、新潟空港からタクシー約15分
◎ 駐車場のご案内 メディアシップ駐車場（24時間営業）第1駐車場は220円、第2駐車場は200円（第1、第2共に30分 税込）
※周辺には、万代シティ駐車場、朱鷺メッセ駐車場などございます。

